

# あなたの一番大切な人は誰？

新年会の会場で、直撃アンケート

恒例になった懇親会会場でのアンケート。今回は「あなたの一番大切な人は誰れ？」

広報担当の諸氏が会場を飛び回り、取材してくれました。

飯島ミキ子さん、小池典子さん、佐藤英一さん、清水良英さんです。(2016年1月30日●新年会会場にて)(順不同、敬称略)

- 🍷 **カーチャン**です。理由は、おこずかいをくれるからです。(商学部)
- 🍷 **孫**です。理由は、可愛くて、日ごと日ごと成長していくのがわかるからです。(文学部)
- 🍷 **妻**です。理由は、一緒になってから出かけるときは、必ず靴にWAXとブラシをかけてくるからです。(経済学部)
- 🍷 **友人(幼馴染)**です。理由は、何でも話せる仲であり、驕らず、怒らず、上から目線ではなく、親身に相談相手になってくれるからです。(経済学部)
- 🍷 **妻**です。理由は、常に、半歩さがっていつでも支えてくれるからです(山内一豊の妻みたく)。(学部不明)
- 🍷 今のところ面倒を見ている**孫の春花**かな。二歳半で大へんだけれど、とってもかわいいです。バアバ、バアバと私のあとをついてまわります。(飯島ミキ子)
- 🍷 会社の**社員たち**です。(百々建夫)
- 🍷 やっぱ**女房**。高校の友人で2年間も音沙汰のなかった人がいた。どうしてそうだったか聞いてみると、奥さんが癌になって、その2年間を全て闘病中の奥さんに合わせて生活していたんだとか。残念ながら奥さんは亡くなってしまったそう。そして、その彼が言うには、もう面倒を見る人はいない筈なのに、友人との会合に出てもつまらないんだ。何だか妻が家で自分を待っているような気がして落ち着かないんだ、と。だから、やっぱり女房の存在。(柳下進)
- 🍷 **妻**。あんなに怖い人はいない。(勝山)
- 🍷 **息子**。我が家は、一人っ子です。妻は、賞味期限が過ぎており、息子は、36歳で未だに独身です。食べ物ではありませんが将来を期待して大切にしたいと思っています。(清水)
- 🍷 勿論、**おっかさん(妻)**。病気で通院しても、入院してもやっぱりおっかさん。入院すれば手厚く看護師さんが面倒をみてくれるんだけど、やっぱりダメなんだあ、おっかさんでないと。(菅原正人)
- 🍷 この年になるとやっぱり**女房(笑)**。どんな時にいかというと、例えば小旅行などした時、他人に荷物

- を見ていてもらうことは出来ないけれど、女房なら気楽に荷物を託すことが出来る、この世で一番信頼出来る人。安心出来る人。(栗山博樹)
- 🍷 **妻**。(小野塚)
- 🍷 **夫と娘**。二人の大切さの比重は同じかな。でもそれと同じように大切なのは日頃和気藹々と接することの出来る我が社の社員たちであり、また、自分と向き合っている時の相手。つまり今日は、こうしてインタビューをしてきている目の前のあなた。(注)因みにインタビュアーは小池(一戸裕子)。
- 🍷 **女房をはじめ家族3人全て**。60歳の時に熱中症で倒れた。すぐに家族が飛んで来てくれて応急処置。その後、速やかに病院に運んでくれ、みんなで一生懸命看病してくれたことが忘れられない。(根本史郎)
- 🍷 頭の中では**奥さん**です。これからもよろしくお願いします。(匿名希望)
- 🍷 やはり**家族全員**。家族の誰が一番かを言及されたら、私は苦しくなってその場を立ち去ります。夫が一番！と声を大にして言うのは、仕事をリタイアした後の夫の姿をじっくり見ながら、という事にしておきましょう(笑)。今、ごくごく身近で大切なものは在りし日の愛犬の写真。そして常々、一期一会を大切にしたいと思っています。一番、二番と順位をつけるものを私は持っていません。(小池典子)
- 🍷 **カミさん**です。理由はお金(小遣い)をくれるからです。(前田正一)
- 🍷 **女房**ですって言うのは簡単だね。僕は色々な人と付き合っているけど、**友人**の存在も同じようにとても大切。その友人の誰が一番大切なのかを絞り切れないのが友人であるように思う。(野本憲策)
- 🍷 **奥さん**が大切。お互い公務員同士だったので、本来なら話しちゃいけないことも話せる関係が有り難かったかな、って思います。(安井修)
- 🍷 **小学校の恩師**です。家内を紹介してもらい、仲人をしていただきました。(降旗忠義)
- 🍷 **妻**です。愛しているから。ちょっとうるさいときもありますが。(千種伸夫)

(商)。千種さんのご紹介で参加されました。卒業後は、証券会社一筋に勤務されたそうです。箱根駅伝の話題に触れ、大学が八王子のままで良いのか、と疑問を口にしておられました。詳しくは、丸山さんの自己紹介文をお読み下さい。

## じゃんけん大会

恒例の元木会長プロデュースによるじゃんけん大会。景品は昨年引き続き、北海道の平沼冠三さん(経)からのレトルトカレーの詰め合わせをはじめ、ベルギー産のチョコレートと焼き菓子、鎌倉小川軒のレイズン・ウィッチ、鎌倉紅谷のクルミツ子と多数。元木会長の「最初はグー」のかけ声に合わせて、じゃんけん勝ち負けゲームスタート。3等賞からは負けるが勝ちで、負け抜けになりました。

## 校歌と惜別の歌

応援部OBの栗山秀樹さん(商指導の下、校歌を斉唱しました。「草の緑に風薫る丘にまばゆき白門を」と皆で肩組み合って、大きな声で歌うと学生時代を思い出しました。続いて、おなじみの勝山達志さん(文)がナレーションを担当し、参加者全員で肩組み合って歌う第二校歌「惜別の歌」ご存知のとおり、島崎藤村の詩に、昨年亡くなられたOBの藤江英輔氏が作曲したもので、これまで

勝山さんのナレーションは、勤労動員された学生同士の恋を將校に邪魔をされ、二人は引き離されるという恋物語ででした。しかし、これが事実と異なることが判明し、勝山さんも大変悩んだそうです。その結果、今回からは、当時の学徒出陣の状況などの前説を交え、戦地に赴く学友を送る際に友情と離別の思いを込めて作ったというナレーションに変更になりました。参加者は肩を組み、輪になって歌い、またの再会を誓い合いました。

締めあいさつは、安井賢光さん(法)が会の感想を述べ、三本締めでお開きとなりました。二次会は会場から5分ほど離れた北海道で25人が参加し、酒を酌み交わし、学生時代の思い出や趣味の話、ゴルフの話等々で2時間、たつぷり盛り上がりました。今年も参加できなかった会員の皆様、卒業して四十有余年でも、会えば学部に関係なく、あの頃にタイムスリップし、自分や友の学生時代に戻れると思います。来年は、ぜひ、ご参加下さい。

根本史郎(法)記



2016年新年会 於スクワール麹町

## 初参加の方の感想

丸山直樹

団塊の世代と呼ばれる1947年〜1949年生まれの自分たちですが、文化的思想的な面で共通していることが多いと思います。経済面においては、高度経済成長、バブル景気と失われた20年の時代を経験しました。連合赤軍浅間山荘事件が起き、沖縄県が日本に復帰し、田中首相の「日本列島改造論」が始まったのが1972年で、その年に中央大学を卒業した私たちが、早や還暦を過ぎ、まもなく古希を迎えることは、驚きです。

平和日本？で、育った私たちが、希望に胸を膨らませて大学を巣立つてから、既に44年が経過しました。それぞれの人生を歩み、無事定年を迎えられ、47白門会に集い、情報交換することは意義深いことです。私は、この度、47白門会の新年会に出席し、たいへん楽しい思いをし、若返りをしたようで、また、他の会員の方の考え方も参考にになりました。

同じ学び舎で過ごした共通の思いから、今後、年1、2回都内で集まることは意義があり、そこで、今までのこと、今後の人生の話などができることを期待します。私自身は、証券会社に40年勤務しました。会社では、個性豊かで指導力の強い先輩方々から大いなる薫陶を受け、厳しかったのですが、今日に至っています。

私は、人生、何事も自己研鑽と経験ではないかと思っています。人生は、山あり、谷あり。百歳時代も間近かです。

これからの人生は、新たな発見を求め、経験を活かして、微力ながら、社会に貢献できたらと考えています。

※編集部注 ご本人のお写真を掲載しようとしたのですが、遠慮されたので、お載せしていません。悪しからず。いい男です。